

令和 8 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	71	学校名	県立下館第二高等学校			課程	全日制		学校長名	池田 恭彦								
教頭名	細井 ひろみ								事務長名	小泉 努								
教職員数	教諭	38	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	6	実習教諭	実習講師	実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	59
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数								
		男	女	男	女	男	女	男	女									
	普通科	101	139	98	139	95	138	294	416	18								

2 目指す学校像

シン・館二スローガン『Start from Zero To One ～無から有の創造～』のもと、体力と気力に満ち情操豊かな人間力を備え、地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	シン・館二スローガン『Start from Zero To One ～無から有の創造～』のもと、知識・体力・教養・創造性に満ちた「人財」を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○目標の連鎖に留意して学習活動、特別活動、道徳教育、人権教育等を行うことにより、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人財を育成する。 ○学習指導要領の実施を通じて、確かな学力を身につけ、社会の変化に対応して、他者と協働して課題解決にあたることのできる資質・能力を育成する。 ○「総合的な探究の時間」を活用し、地域連携や進路実現を見据えた自己実現、その他様々な内容の探究型学習の・模索と充実を図る。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ○地域の課題に興味・関心を持ち、その課題解決のため、地域社会との協働に意欲のある生徒 ○生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	学習全般に向上心をもって取り組み、地道に努力を重ねる生徒がいる一方、基礎学力の定着度が不十分な生徒や、学力面で伸びる力を秘めながら意欲や自主性に欠ける生徒が少なくない。真面目であるが、自ら工夫し積極的に学びに向かうことを苦手とする生徒が多い。	主体的積極的な学習態度の育成や学習意欲の維持向上のため、生徒の実態に応じた授業の工夫・改善が必要であり、教員相互の積極的な研修・研究を進める。また、生徒の主体性を育み、深い学びにつながるような「総合的な探究の時間」の充実を図る。

特別活動	生徒会関係の行事（恵幸祭・式翔祭）について、可能な限り生徒主体の企画・運営を目指しているものの、リーダーとして活躍できる生徒が限られている。部活動については、部員数が減少している部が増えているとともに、専門性を生かした顧問の配置が難しい状況になっていることから、部の精選について検討が必要になっている。	行事・部活動ともに生徒の自主的、自発的な取組を支援するための創意工夫とともに、リーダーの育成を図る。 部活動を活発にすることで、活力ある教育活動の推進を図る。専門家のいない部活動には、外部からの部活動指導員を活用するなど、活動を充実させる。
進路指導	生徒の進路希望が多方面に分かれており、6～7割の生徒が大学・短大進学を希望している。近年入試形態も多様化し、年内入試を希望する生徒が増えている。ほぼ進学希望を達成しているが、国立大学進学を第一志望とする者に対する達成率は高くない。	キャリア教育の充実を図り、組織的・計画的な進路指導を通じた生徒の進路実現の推進。年内入試（総合型選抜や学校推薦型選抜）による早期進路決定者に対する学習意欲の喚起。
生徒指導	・インターネット・SNSの不適切な利用が見られ、生徒間のトラブルに発展することがある。 ・登下校時、自転車の交通ルールを守れない生徒がいる。	・スマートフォンやタブレットPCの使用方法についての安全教育を進め、情報モラルをより高める必要がある。 ・交通法規の遵守について生徒が主体的に取り組む姿勢の支援を図るとともに、交通安全教育のさらなる充実を目指す。
第1学年	進路に関しての知識が不足している生徒が多く見られる。保護者についても同様の傾向である。また、学習意欲や進路に関する意識等、個人差が大きく、主体的に物事に取り組める生徒が少ない。	進路行事等によって、進路目標の確立を進め学習意欲の向上を図る。また、部活動や学校行事を積極的に体験させることで主体的に物事に取り組む姿勢を育む。また、保護者についても進路関係の講演会等により意識を喚起する。
第2学年	四年制大学など上級学校へ進学を希望している生徒が多く、進路希望実現のためには更なる成績の向上を要する。積極的に進路研究をするなど、自己の判断に基づいて主体的に行動しようとする意識が必要である。	基礎学力の定着と進路指導の充実を図る。部活動、学校行事に主体的に参加することにより、進路目標達成のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。
第3学年	大部分の生徒が大学進学を希望しており、希望進路実現に向けた意識を高めるとともに、学力向上のため、家庭学習時間の確保が必要不可欠である。部活動や行事等への取り組みに対し、生徒の主体性、積極性に差がある。	個別面談を充実させることにより、個に応じた進路指導を通して進路目標を明確にさせ、Achieve「夢を達成させる」ことができるようにする。コミュニケーション能力や規範意識の確立を図り、社会人としての資質を育む。
働き方改革	時期により勤務時間を超過しての業務にあたらざるを得ない職員が多い。また、職員による業務の偏りが見られる。	学校行事の精選や業務の効率化及び平準化を図り、超過勤務時間の減少を目指す必要がある。また、部活動の在り方を見直し、運営方針を基本とした業務の遂行に取り組む。

5 中期的目標

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、積極的なICTの活用により、学力の向上を目指す生徒の「伴走者」として教育活動を行う。
2. 高度な専門性を養う四年制大学進学を推進し、国公立大学合格者数15名、難関私立大学合格者数15名を目標に、進路指導の充実を図る。
3. 道徳教育、人権教育を充実し、社会人として求められる規範意識や多様な他者への理解、共に助け合うことの大切さを身につけ、よりよい人間関係を育む。
4. 「総合的な探究の時間」を充実させ、地域や社会における課題を見つけ出し、原因分析や解決への方策を探究することで、地域に貢献できる人財を育成する。
5. 将来の職業として教師を目指す若者が増えるよう、校務のDX化・業務量の平準化等による働き方改革を推進、ワークライフバランスの充実を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高揚、学力向上に向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的なICTの活用を含めた授業を推進し、主体的対話的で深い学びの実現と学力向上に向けた授業改善に取り組む。ICT活用の工夫をしている教員の割合80%程度を維持する。 ②公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、教員の資質向上を図る。生徒による授業評価の観点のうち「授業満足度」3.5以上を目指す。 ③「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学習を通して、地域に貢献できる人材育成を図る。 ④生徒の実態に応じた選択授業などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①好ましい人間関係を基礎にした望ましい集団の実現に努める。 ②教育相談、教育情報交換会等を通して共感的理解をもって生徒理解を深める。 ③交通安全教育の推進と事故防止に努める。 ④家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育・進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリアパスポート等の活用により、キャリア教育を充実し、社会に貢献できる高度な人材育成を目指して大学進学を推進する。 ②3年間を見据えた計画的な進路行事を実施することを通して、望ましい職業観・勤労観を育成する。また、スタディサポートや模試を活用し学び直しや復習をすることで、学力の定着に努め生徒の希望進路実現を図る。 ③進路情報発信に努め、生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の充実と特別活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。 ②生徒会活動や学校行事、部活動を通して、社会性やコミュニケーション力を高める。 ③筑西市と連携を深め、地域の実態や課題を把握し、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、活力ある学校づくりに役立てる。 ④部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。
<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 ②“下館二高3Aプラン（Assess、Act、Achieve）自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 ②学校安全委員会を中心に、安全・美化点検を定期的に実施し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事の精選、効率的な運営を図る。 ②ICTを活用して業務の効率化を図るとともに、教職員の協働性を高め、業務の平準化を図る。 ③部活動運営方針を遵守するとともに、部活動数・顧問数など運営の見直しを図る。